

連載

- 36 海の向こうの仕事から 第7回
ハノイを駆け抜ける疾風
—東京メトロのハノイ市都市鉄道運営会社設立支援プロジェクト—
川上 邦雄 東京地下鉄(株)鉄道本部渉外担当部長
ハノイ市都市鉄道整備事業支援プロジェクトチームコーディネーター
- 38 学生が行く! 土木のお仕事 第7回
都市河川の自然復元をひもとく! (横浜市・いたち川:人物編)
吉村 伸一氏 (株)吉村伸一流域計画室 代表取締役
- 40 土木学会を知らう — 委員会の紹介 第7回
エネルギー委員会
毛利 哲明 電源開発(株)土木建築部企画業務室 室長代理
笠原 寛 電源開発(株)土木建築部開発調査室 総括マネージャー(水力)
- 44 Studying Abroad No.7
ドイツで学ぶ博士学生! —東日本大震災と航空宇宙研究の架け橋を目指して—
郷右近 英臣 東北大学大学院 博士後期課程2年
- 45 この本を薦めます 第7回
中村 良夫 東京工業大学 名誉教授
- 46 地域レポート
46 徳島県の挑戦
自然環境重視とコストダウンを両立させた「阿波しらさぎ大橋」
寺田 和己 (株)寺田技術アドバイザー事務所
武市 修一 (公財)徳島県建設技術センター 理事長
- 48 土木分野における若手技術者・学生への意向調査
—学生・若手の現状と課題解決の提言—
野口 好夫 名古屋工業大学 高度防災工学センター 協力研究員
松本 嘉孝 豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
- 52 月評 5月号を読んで
西川 和廣 佐藤 滋 加島 寛章
- 54 被災地からの発信 [第5回]
54 陸前高田市・今泉地区の復興まちおこし計画
長谷川 浩己 ランドスケープ・アーキテクト
58 相馬港沖防波堤の復旧への取組み
魚谷 憲 国土交通省東北地方整備局 小名浜港湾事務所長
- 60 論説
第72回論説(1) 50年後の国土整備を担う人材の育成
—大学の役割と学科名称を考える—
落合 英俊
第72回論説(2) 少子化時代における建設生産システムの再構築
高野 伸栄
- 62 土木学会の動きからピックアップ
平成25年度土木学会賞候補(研究業績賞、論文賞、論文奨励賞)の募集
- 64 土木学会の動き
64 部 門 報 告 平成24年度「重点研究課題」の概略報告について
68 技術推進機構 2012年度土木学会認定土木技術者資格審査認定者の発表
71 支 部 報 告 関西発 持続可能な社会基盤施設の維持管理を目指して—土木学会関西支部
「社会基盤施設の維持管理のための各種スキーム検討委員会」活動報告—
74 協定学協会 「第一回建設マネジメントに関する日本・ベトナムジョイントセミナー」がハノイ
で開催される
76 協定学協会 「第二回日本・インドネシアジョイントセミナー—建設工事の品質保証システム
に関する神話と現実—」がジャカルタで開催される
78 お 知 ら せ 土木学会フェロー会員認定のご案内
79 お 知 ら せ フェロー会員申請とフェロー会員候補者推薦のお願い
81 お 知 ら せ 東日本大震災に関する東北支部学術合同調査委員会報告書DVDの発刊のご案内
81 お 知 ら せ 東北支部事務所移転のお知らせ
- 82 ニュース / 83 公募情報 / 86 新刊紹介 / 87 会員入退会 / 88 土木学会論文集目次
90 会告情報欄 / 94 次号目次(予定) / 94 PR欄目次 / 95 土木学会会員の方へお知らせ
96 本部行事参加申込書 / 97 図書・試験器類等購入注文書

学会情報

付録

土木学会平成25年度全国大会 案内

Vol.98 no.7 July 2013

- 04 **Admiration of Civil Engineering Heritages by JSCC: Civil Engineering Heritage Sites Selection:**
Tokusagawa Bridge— The little lattice girder bridge with grand hope of western Shimane Pref.—
SANADA Junko
- 06 **Feature articles:**
What is the nature of maintenance of social infrastructure? — For gaining a better public understanding
- 08 **Issues in Maintenance and Renewal of Public Infrastructure — Direction of JSCC's Strategies.**
HASHIMOTO Kotoro
- 10 **Maintenance and Renewal of Public Infrastructure — To Make it More Fascinating and More Shining.**
HASHIMOTO Koutarou, SUZUKI Motoyuki, IEDA Hitoshi, AMANO Reiko, SEKI Katsumi
- 16 **A view from the financial asset management perspective to social infrastructure maintenance problems.**
ICHIKAWA Satoshi
- 18 **Maintenance of railway structures**
Aoki Teruyuki
- 20 **Risk based maintenance of power facilities**
SAKATA Tomomi
- 22 **Facility management in New Kansai International Airport Company, Ltd.**
YAMAGATA Nobufumi
- 24 **Efforts to repair and rebuilding projects of the facility with a long-term perspective — Sewer facility management of Yokohama city —**
MEGURO Toru
- 26 **The need for large scale repair work in deteriorated expressway. "Towards minimize the impact to our customers by the prementation of the repair work more efficiently and effectively."**
TAKAHASHI Yoshiharu
- 28 **Large Scale Reconstruction of Metropolitan Expressway —Efforts for Social Approval for the Project—**
OTSUKA Keizo
- 30 **Management of the bridge using "The 808 Bridges of Naniwa" — Aims to enhance the value of the bridge —**
KOMATSU Yasutomo
- 32 **Issue of maintenance from the mass media's point of view. We should point out the merit of maintenance as well as obligation**
NAKANOME Junichi
- 34 **Further Study**
- 36 **Working abroad:A breeze of HANOI**
KAWAKAMI Kunio
- 38 **My life as Civil Engineer: Vol.7**
- 40 **Committee report**
The Committee of Civil Engineering for Energy Equipment
MOURI Tetsuaki, KASAHARA Satoru
- 44 **Studying Abroad**
- 45 **Book review**
- 46 **JSCC Member's Report**
Design of Awa Shirasagi Ohashi Bridge: Protecting the Environment and Reducing Construction Costs
TERADA Kazumi, TAKEICHI Shuichi
- 48 **Questionnaire of the intention that younger civil engineers and students learning the civil having — The actual status of younger engineers and students, and the proposal of these status problems solutions —**
NOGUCHI Yoshio, MATSUMOTO Yoshitaka
- 52 **Reviewing May issue**
- 54 **Letters from Tohoku**
RECONSTRUCTION OF IMAIZUMI AREA, RIKUZENNAKATA CITY
HASEGAWA Hiroki
- 58 **Efforts for Reconstruction and Revitalization of the Breakwater in Soma Port**
UOTANI Satoshi
- 60 **Adviser's column**
- 62 **Pick-and-Choose Updates**
- 64 **JSCC Updates**
- 82 **News**
- 83 **CE Careers**
- 86 **New books**
- 88 **New Paper on J-STAGE**
- 90 **JSCC Calendar**
- 94 **This Issue's Contributors**
- 94 **Next Issue**

■今月の表紙

技術の手触り

南河内橋 (福岡県北九州市)

官営八幡製鐵所で使用する膨大な工業用水を確保するために、河内貯水池は1927(昭和2)年に建設された。堰堤、道路、送水路、橋梁、各種建屋などの施設で構成されており、そのすべての設計と施工の指揮を執ったのは、八幡製鐵所土木課長(当時)の沼田尚徳(ひきのり)である。これらの施設には一貫して独創的な工夫が盛り込まれており、意匠においても高い質感が保たれていることに驚嘆する。特に経済性と耐久性の観点から随所に採用された現地産石材は、きわめて丁寧に扱われている。切石積み、野面積み、割石積みなど、さまざまな組積み方法が組み合わされ、独特な調和が生まれているとともに、丹念に手間をかけたものだけに生じるある種の執拗さを感じられる。

橋梁群へのこだわりも強く、鉄筋コンクリート床版アーチ橋やコンクリート被覆鉄骨橋など、特殊な構造形式が採用されている。その中でもひととき目を引く赤い鋼橋が、湖面を跨ぐ「南

文・写真:八馬智 HACHIMA Satoshi
図面提供:新日鐵住金(株)八幡製鐵所

特集

06 社会インフラの維持管理問題の本質とは？ —国民の理解を得るために—

08 社会インフラの維持管理・更新の課題と土木学会の取組み方針について

橋本 鋼太郎 土木学会第101代会長

10 座談会 メンテナンスワールドをより魅力的に光り輝くものにするために

[座談会メンバー]

橋本 鋼太郎 土木学会第101代会長(社会インフラTF委員長)

鈴木 基行 東北大学大学院 教授(社会インフラTF副委員長)

家田 仁 東京大学大学院 教授(社会インフラTF委員・国交省メンテナンス戦略小委員会委員長)

天野 玲子 鹿島建設(株) 部長

関 克己 京都大学経営管理大学院 客員教授(元水管理・国土保全局長)

16 金融アセットマネジメントの視点から維持管理問題を考察する

市川 智 (株)三菱総合研究所 金融ソリューション本部 副本部長

18 鉄道土木構造物の維持管理について

青木 照幸 東日本旅客鉄道(株) 設備部(土木) 次長

20 リスクを基に維持管理費の納得性を高める —電力土木施設の維持管理戦略—

坂田 智己 電源開発(株) 土木建築部 企画業務室

22 新関空(株)における「施設運営」

山縣 延文 新関西国際空港(株) 技術・施設部長

24 長期的視点を持って修繕・改築事業に取り組む

—横浜市下水道施設の維持管理と経営—

目黒 享 横浜市 環境創造局 政策調整部 政策課長

26 老朽化した高速道路の大規模補修工事の必要性

—効率的・効果的な工事の実施とお客様への影響の最小限化を目指して—

高橋 義治 西日本高速道路(株) 関西支社 京都高速道路事務所

28 首都高速道路の大規模更新 —社会的認識の醸成に向けて—

大塚 敬三 首都高速道路(株) 計画・環境部 計画調整課長

30 「なにわ八百八橋」を活用した橋梁マネジメント —橋梁の価値の最大化を目指して—

小松 靖朋 大阪市 建設局道路部 橋梁課担当係長

32 メディアから見た維持管理問題 —「べき論」だけでなく、そのメリットを伝えよ—

[語り手] 中野目 純一 『日経ビジネス』副編集長

34 特集関連資料の紹介 社会インフラの維持管理問題をより深く理解するために

02 会長就任挨拶

社会に貢献する土木学会を目指して

—産学官および市民の連携から新しい公共の創造へ—

橋本 鋼太郎 土木学会第101代会長

03 編集委員の紹介

2年目に入りました

佐々木 葉 学会誌編集委員長

連載

04 見どころ土木遺産 第108回

徳佐川橋梁 —地域の希望を背負った小さなラチス桁橋梁—

真田 純子 徳島大学



河内橋である。
19世紀後半に欧米で流行したレン
ティキュラトラスと呼ばれるこの橋
梁形式は、圧縮力を受ける上弦材の
アーチと引張力を受ける下弦材の吊材
からなる複合的な構造と言えよう。力
学的合理性からは理想的な形態の一つ
かもしれないが、材料や施工の合理性
には欠けるためか、架橋時にはすでに
過去の構造形式であった。欧米の事情
に詳しかったとされる沼田があえてこ
の形式を採用したのは、何らかの理
由があるのだろうか、明確には伝えら
れていない。
さらにこの時期のトラスの格点は、
手間のかかるピン接合からシンプルな
剛結合に置き換えられるようになって
きた。そうした背景から、表紙写真
のピンのような丁寧な整えられたデイ
テールにも深い意味が込められている
のではないかと思わずにはいられない。